

100mm幅記録計

【1ペン仕様】

【2ペン仕様】

取扱説明書


この度は、弊社の記録計をお買い上げ頂きまして、誠にありがとうございます。


この取扱説明書をよくお読みになり、安全に正しくお使い下さい。

お読みになった後も、この取扱説明書は大切に保存して下さい。


■ 注意の表示について


■ 本機器には安全に使用していただくために次のようなシンボルマークを表示しています。

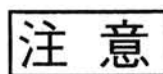
 : "取扱注意"を表しています。人体及び機器を保護するために、取扱説明書を読む必要がある場所に付いています。ご使用前に必ずお読み下さい。

 : "接地端子"を表しています。機器のご使用前に、必ずアースを確実に接続して下さい。

■ この取扱説明書には、安全に使用していただくために次のようなシンボルマークを使用しています。

 **警告** : 取扱いを誤った場合、取扱者の生命、身体に危険が及ぶ恐れがある場合にその危険を避けるための注意事項が記されています。

 **注意** : 取扱いを誤った場合、取扱者の傷害を負う恐れがある場合の注意事項が記されています。

 **注意** : 取扱いを誤った場合、機器自体を損傷する恐れがある場合の注意事項が記されています。

参考 : 操作の参考になることや、関連した機能などについての情報です。

■ その他の表示について

[] : 操作キーを表します。

■ お願い

- ・ 本書の内容は、将来予告無しに変更する事があります。
- ・ 本書の内容に関しては万全を期してありますが、万一ご不審な点や誤りなどお気づきの点がありましたら、お手数ですが裏表紙に記載されている本社又は各支店までご連絡下さい。
- ・ 本書の内容の全部あるいは一部を無断で、転載、複製することは禁止されています。

⚠安全にお使いいただくために

本機器を正しく安全に使用していただくため、本機器の操作、保守、修理にあたっては、下記の安全注意事項を必ずお守り下さい。なお、これらの注意事項に反したご使用により生じた傷害については、当社は責任と保証を負いかねます。

■アース

静電ショックを防ぐため、あるいは感電防止のため、本機器には必ずアースを確実にとって下さい。また、本機器の内部または、外部のアース線を切断したり、接地端子の結線を外さないで下さい。

■保護機能の異常

思わぬ事故を防ぐため、ヒューズなどの保護機能に異常があると思われるときは、本機器を動作させないで下さい。また、本機器を動作させる前には、保護機能に異常がないことを必ず確認するようにして下さい。

■ガス中での使用

爆発性、可燃性、引火性のガスまたは蒸気がある場所でのご使用は絶対におやめ下さい。そのような場所で使用することは大変危険です。

■内部には絶対に手を触れないで下さい。

本機器の内部には高電圧の箇所がありますので、電源を入れたまま内部に手を触れないで下さい。万一、手で触れる場合は、主電源から切り離して下さい。

■外部接続

アースを確実にとってから、測定対象や外部制御回路への接続を行って下さい。

■電 源

機器の電源電圧が供給電源の電圧に合っているか必ず確認した上で、本機器の電源を入れて下さい。

■本体から煙が出ている、変な臭いがする、異音がするなどの異状が認められたときは、直ちに電源スイッチを切り、さらに主電源から切り離して下さい。

異状が認められたときは、お買い求め先あるいは、裏表紙に記載されている本社又は各支店までご連絡下さい。

正しくお使いいただくために

本機器をご使用になるための注意事項です。ご使用前に必ずお読み下さい。

■本機器は下記の条件でご使用されることを前提としています。

- ・コンポーネントタイプの機器であり計装パネルもしくは、ラックなどに設置して使用します。
また、持ち運び可能なポータブルとしても使用します。

■帯電したものを信号端子に近づけないで下さい。故障の原因になります。

■故意に分解や改造された場合は、本機器の機能及び性能を保証できません。

■使用しないときは、必ず電源をお切り下さい。

目 次

■注意の表示について	1
■その他の表示について	1
■お願い	1
△安全にお使いいただくために	2
正しくお使いいただくために	3
本取扱説明書の使用方法	6
1. 特 長	7
1-1. 製品の特長	7
2. ご使用になる前に	8
2-1. 付属品の確認	8
2-2. 輸送用ネジを取り外す	9
2-3. 型式の確認	9
3. 設置方法	10
3-1. 設置する場所及び方法	10
3-1-1. 設置する場所	10
3-1-2. 設置する方法	11
3-1-3. 外形寸法	12
△ 3-2. 配線方法	12
△ 3-2-1. 背面端子の配置	13
△ 3-2-2. 電源の配線方法	14
△ 3-2-3. 入力端子の配線方法	16
△ 3-2-4. 警報出力端子の配線方法	19
△ 3-2-5. 外部制御端子の配線方法	21
4. 各部の名称と機能	23
4-1. 前面パネル	23

5.	記録紙、ペンの取りつけかた	25
5-1.	記録紙のセット（交換）	25
5-2.	ペンのセット（交換）	29
6.	基本操作	31
6-1.	電源スイッチのON/OFF	31
6-2.	記録開始/停止	31
6-3.	外部制御	32
7.	設定	34
7-1.	周波数設定	34
7-2.	警報設定	35
7-2-1.	下限警報の設定および動作	35
7-2-2.	上限警報の設定および動作	36
8.	保守点検	38
8-1.	定期点検	38
8-2.	清掃	39
9.	トラブルシューティング	40
10.	仕様	44

本取扱説明書の使用方法

本取扱説明書は以下のような構成になっています。目的と時期に応じて、使い分けすることをお勧めします。

(◎印の所は必ず読んで下さい。)

(△印の所は必要に応じて読んで下さい。)

購入時 及び 設置時	初 期 設定時	日常の 操作時	設 定 変更時	保守時 及び トラブル 発生時	参 照 章
◎	◎	◎	◎	◎	安全にお使いいただくために
◎	◎	◎	◎	◎	正しくお使いいただくために
△	△		△		1. 特 長
◎					2. ご使用になる前に
◎					3. 設置方法
	◎	◎	◎	△	4. 各部の名称と機能
◎	△	◎			5. 記録紙、ペンの取り付けかた
	△	◎	△		6. 基本操作
	◎		◎		7. 設 定
				◎	8. 保守点検
	△		△	◎	9. トラブルシューティング
△	△		△	△	10. 仕 様

1. 特長

この章では、本記録計の特長と機能の概要について説明しています。特長と機能の概要をご理解いただき、本記録計をご使用下さい。

1-1. 製品の特長

本記録計は、小型軽量で扱い易い、DINサイズの100mm幅パネルマウントタイプの自動平衡式記録計です。機種は、1ペン、2ペン、2打点、3打点、6打点と5種類が用意されています。あらゆるお客様の仕様に適応可能なので、多分野での使用が出来ます。

■コンパクト設計

奥行き150mmのコンパクト設計により、狭いスペースにも設置可能です。

■容易なペン交換

ファイバーチップペンの使用により、インクづまりがなく手を汚さずに交換ができます。

■容易な記録紙交換

チャートカセット方式により、記録中でも記録済みのデータの観察が出来ます。また、記録紙の残量確認、交換が容易に出来ます。

■豊富な入力種類

入力種類が豊富です。8種類の熱電対、測温抵抗体、直流電流、直流電圧を取り揃えています（工場出荷時設定）。

■豊富なオプション

警報機能、外部制御、バーンアウト、ポータブル等をオプションとして取り揃えています（工場出荷時設定）。

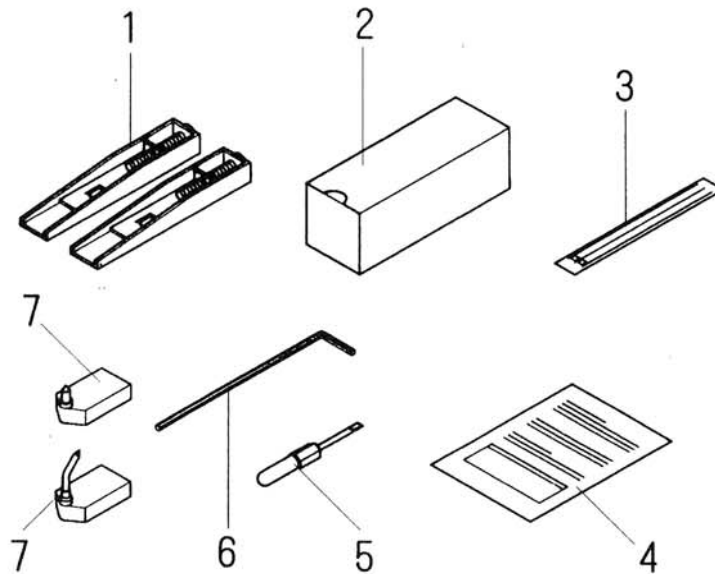
2. ご使用になる前に

この章では、本記録計をご使用になるための必要な準備について説明します。ご使用前に必ずお読み下さい。

2-1. 付属品の確認

本機器は十分な社内検査を経て出荷されておりますが、本機器がお手元に届きましたらご使用になる前に付属品や外観のチェックを行い、不足及び損傷のないことをご確認下さい。もし万一、付属品が足りないときや破損しているときは、お買い求め先又は、裏表紙に記載されている本社及び各支店までご連絡下さい。

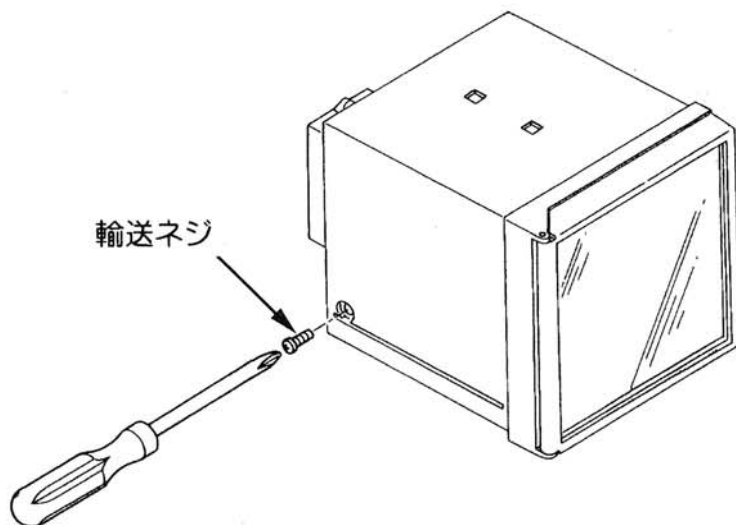
本機器には下図の付属品が添付されています。



番号	品名	数量	備考
1	パネル取付金具	1式	
2	記録紙	1	
3	記録カード	1	
4	取扱説明書	1	本書
5	マイナスドライバー	1	警報機能(オプション)付きのみ
6	六角レンチ	1	
7	ペン 1ペン仕様 2ペン仕様	1 2	赤 赤、青

2-2. 輸送用ネジを取り外す

内器は輸送用ネジによって固定され、輸送中の振動などから保護されていますので、これを下図に従って取り外して下さい。輸送用ネジは、本機器の左側面にありますので+（プラス）ドライバーで外し、ネジは再輸送時のために保管しておいて下さい。

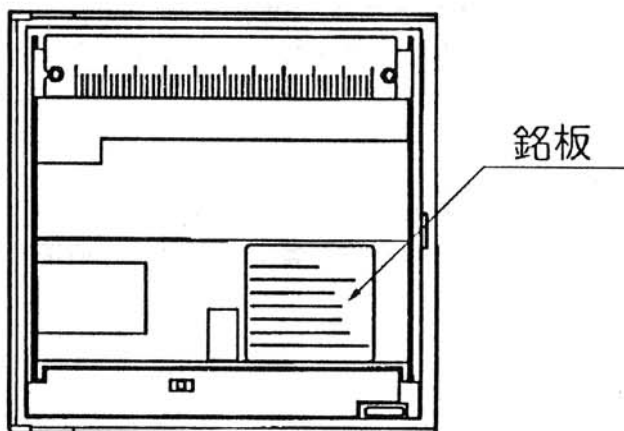


注意

再輸送時には必ず、輸送用ネジを取付けて下さい。

2-3. 型式の確認

本機器がお手元に届きましたら、ご注文の製品と同一であることを確かめるため、型式名のご確認をお願いします。型式は前面扉をあけ、チャートカセットを外した下図の位置の定格銘板に記載されています。お問い合わせの際は、型式（MODEL）、製造番号（No.）をご連絡下さい。



3. 設置方法

この章では、本記録計の設置場所、設置方法、配線について説明しています。設置にあたっては、必ずこの章をお読み下さい。

3-1. 設置する場所及び方法

3-1-1. 設置する場所

次のような場所に設置して下さい。

■計装パネル、ラック

本記録計は、計装パネルやラックに設置されるように設計されています。

■風通しの良い場所

本記録計内部の温度上昇を防ぐため、風通しの良い場所に設置して下さい。

■機械的振動の少ない場所

機械的振動の少ない場所を選んで設置して下さい。

機械的振動の多い場所に設置すると、振動が機構部分に悪い影響を与えるばかりでなく、正常な記録ができない場合があります。

■水平な場所

本記録計を設置する際、左右いずれにも傾かず、水平になるようにして下さい。

次のような場所には設置しないで下さい。

■高い輻射熱（直射日光等）を直接受ける場所

なるべく温度変化が少なく、常温（23℃）に近い場所を選んで設置して下さい。本記録計を直射日光の当たる場所や熱器具の近くに設置すると、内器に悪い影響を与えます。

■湿気の多い場所

湿度35～85%RHの範囲内の環境を選んで設置して下さい。又、結露させないで下さい。本記録計を湿度の多い場所に設置すると、内器に悪い影響を与えます。

■粉塵、油煙、腐食性ガスなどの多い場所

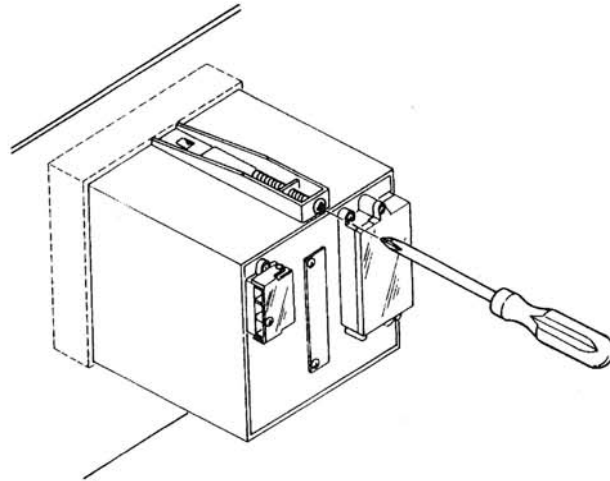
粉塵、油煙、腐食性ガスなどは本機器に悪い影響を与えます。これらが多い場所に本記録計を設置することは避けて下さい。

■電磁界発生源の近く

磁気を発生する器具や磁石を本機器に近づけることは避けて下さい。本記録計を強い電磁界発生源の近くで使用すると、磁界の影響で指示誤差の原因になります。

3-1-2. 設置する方法

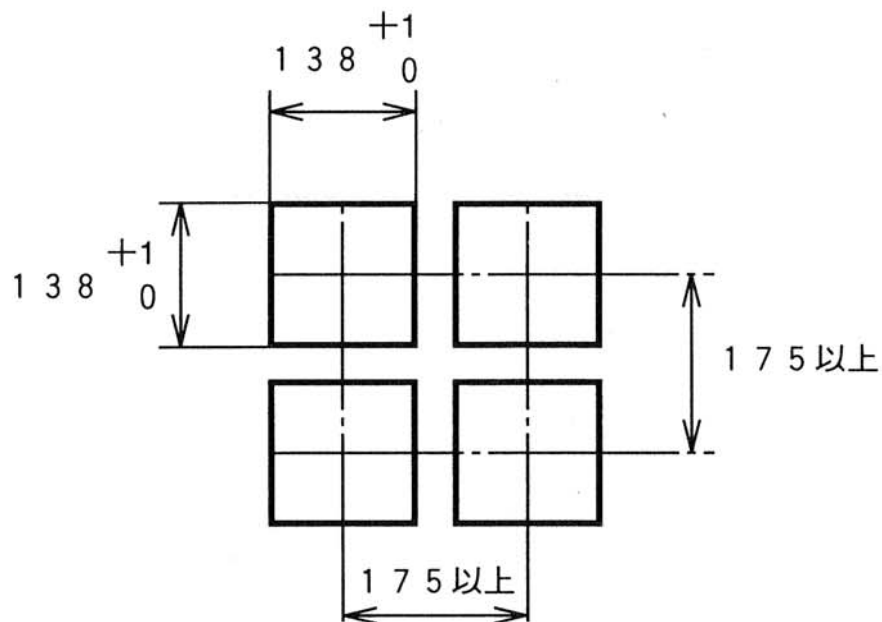
1. パネルは2 mm以上の鋼板又は、同等の強度を有するものをご使用下さい。
2. 本機器をパネル前面より挿入します。
3. 付属の取付金具2つをケースの上下に付属のネジで下図のように+（プラス）ドライバーを使い、取り付けて下さい。



4. パネル取付金具用ネジの適正締め付けトルクは0.5～0.8 N・mです。

注意

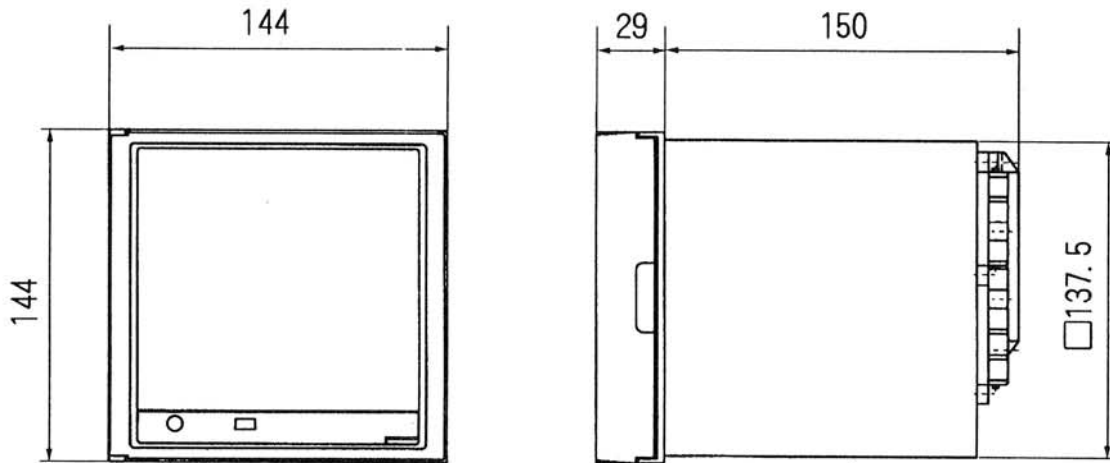
適正締め付けトルク以上に締め付けると、ケースの変形、ブラケットの破損を生じる恐れがあります。



(単位：mm)

パネルカット寸法
(記録計4台並べて設置した場合)

3-1-3. 外形寸法



単位：mm

⚠ 3-2. 配線方法

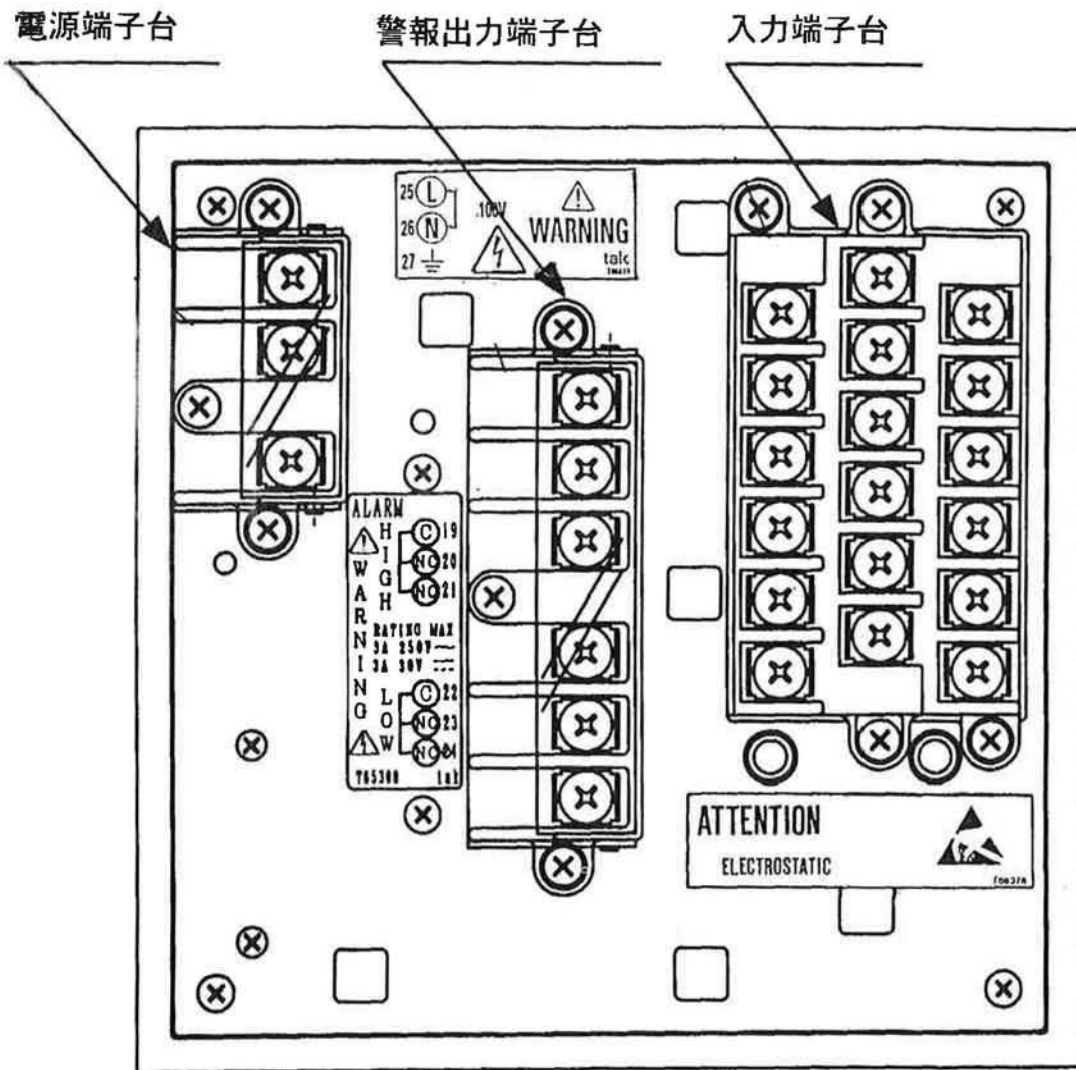
配線は必ず以下の項目を読んでから行って下さい。

- 3-2-1. 背面端子の配置
- 3-2-2. 電源の配線方法
- 3-2-3. 入力端子の配線方法
- 3-2-4. 警報出力端子の配線方法 (オプション)
- 3-2-5. 外部制御端子の配線方法 (オプション)

⚠ 注意

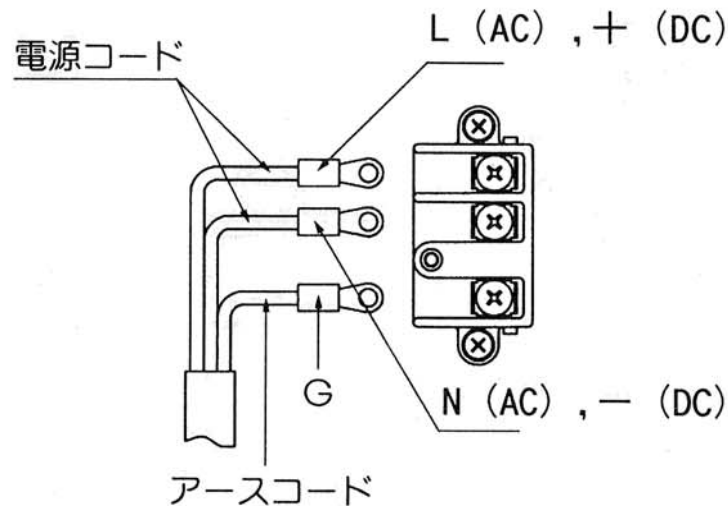
配線コードに引っ張り力が働いた場合でも端子やコードを保護するために、全ての配線コードは設置パネルの背面に固定して下さい。

⚠ 3-2-1. 背面端子の配置



⚠ 3-2-2. 電源の配線方法

1. 本機器の電源スイッチをOFFにして、電源配線カバー（透明）のネジを外し、開けます。
2. 電源コードとアースコードを電源端子に接続します。
3. 電源配線カバー（透明）を閉めて、ネジで固定します。

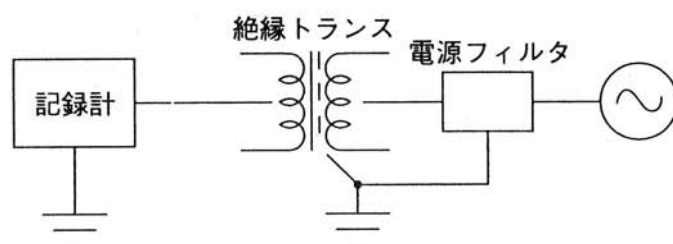


⚠ 警告

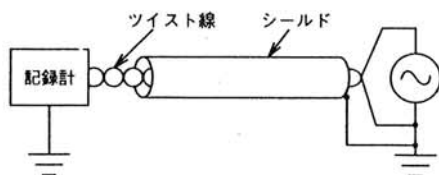
- ・感電防止のため、電源供給元がOFFになっていることを確認して下さい。
- ・火災防止のため、電線は、600Vビニル絶縁電線(JIS C 3307)と同等以上の性能の電線または、ケーブルをご使用下さい。
- ・電源投入前にアース接地は、接地抵抗100Ω以下で必ず接地して下さい。
- ・電源配線及びアース配線には、絶縁スリーブ圧着端子（4mmネジ用）を使用して下さい。
- ・感電防止のため、電源配線カバー（透明）は必ずネジで固定して閉めて下さい。
- ・電源ラインには、本機器を主電源から切り離すためのスイッチを設けて下さい。（突入電流を考慮したものにして下さい。）

⚠ 注意

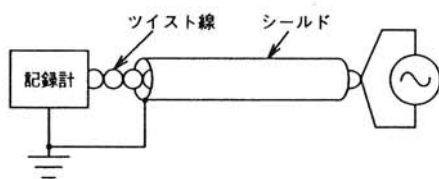
- ・電源装置からの電源配線は、信号ケーブルに対して誘導ノイズを与えないように、また、他の強電ラインからの誘導ノイズ対策として電源供給線および他の強電ラインを金属管配線することが望まれます。金属管工事が困難な場合は、シールド付きケーブルを使用して下さい。
- ・信号ケーブルが電源ケーブルと並行もしくは、交差する場合には、それぞれシールド付きケーブルを使用し、かつ15cm以上の距離を保ち接地された金属製隔壁により静電的、電磁的に分離して下さい。
- ・電源はノイズの無い良質な電源をお選び下さい。電源ラインからの高周波ノイズが大きい場合は、必ずシールド付きの絶縁トランスを設け、シールドを確実に接地します。また、必要に応じて電源フィルタを挿入して下さい。



- ・電源線の1次側と2次側を一緒に束ねたり、同一の電線管あるいは、ダクト内に入れないようにして下さい。
- ・単独接地を要する機器の接地配線の場合、機器間渡り配線は行わないで下さい。
- ・本機器のアースはノイズ防止のため、ノイズ源のある機器との共用を避けて下さい。
- ・信号ケーブルのシールドの接地は、次の原則に従って下さい。



- 1) 信号源が接地されているときは、信号源に近い方の片隅を接地して下さい。



- 2) 信号源が接地されていないときは、接続機器側で片隅を接地して下さい。



3-2-3. 入力端子の配線方法

1. 本機器の電源スイッチをOFFにして、入力端子のカバー（透明）のネジを外し、カバーを取り外します。
2. 入力線を入力端子に接続します。
3. 入力端子カバー（透明）を取り付け、ネジで固定します。

警告

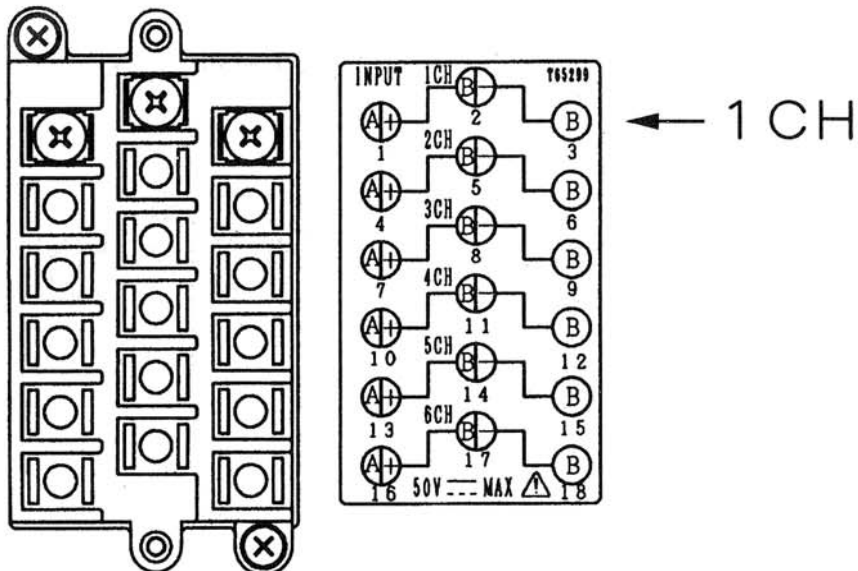
- ・感電防止のため、電源供給元がOFFになっていることを確認して下さい。

注意

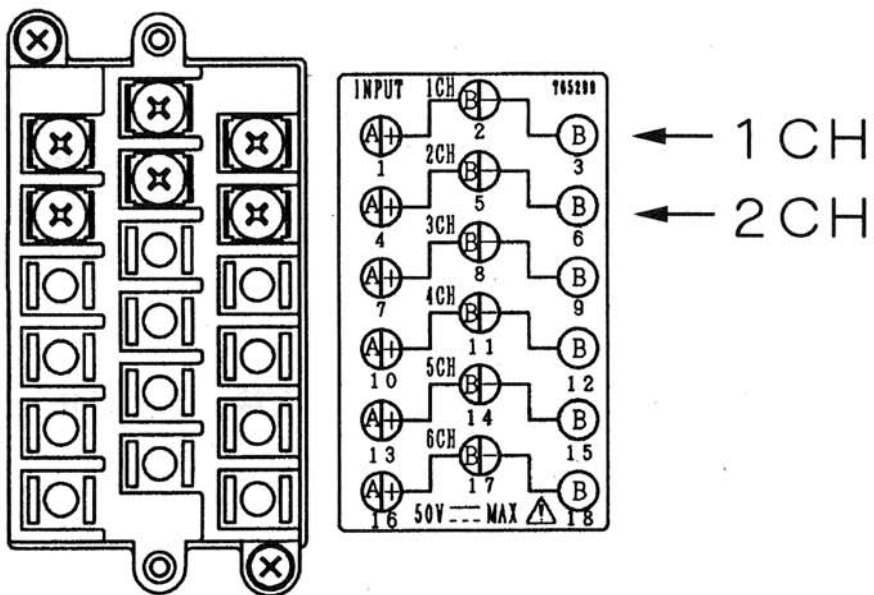
- ・入力信号線を端子に接続する際は、静電気に注意して下さい。故障の原因になることがあります。
- ・以下の値を越えた入力を加えないで下さい。本機器の故障の原因となります。
 - 1) 最大入力電圧
DC 2 V以下の電圧レンジ及び熱電対・・・DC ± 10 V
DC 2～10 Vの電圧レンジ・・・・・・・・DC ± 100 V

参考

- ・線を端子に接続する際は、絶縁スリーブ圧着端子（4 mm用ネジ）をご使用下さい。
- ・入力信号線はノイズを混入させないように配慮して下さい。
 - 1) 入力信号線は、電源供給線（電源回路）や接地回路から離して下さい。
 - 2) 測定対象はノイズ源でないこと。やむを得ない場合は、測定対象と入力信号線を絶縁して下さい。また、測定対象は接地して下さい。
 - 3) アナログ信号とデジタル信号を同一ケーブル内に収容しないで下さい。
 - 4) 電源ケーブルと信号ケーブルは必ず分離し、かつ並行路は避けて下さい。
 - 5) 静電誘導によるノイズに対しては、シールド線が有効です。シールドは、必要に応じて本機器の接地端子に接続します。
（二点接地にならないように注意して下さい）
 - 6) 電磁誘導によるノイズに対しては、入力信号配線を短かく等間隔ねじって配線をする、比較的効果があります。
- ・熱電対入力の場合、端子部の温度を安定させるようにして下さい。
 - 1) 入力端子のカバーは必ず取り付けて下さい。
 - 2) 放熱効果の大きい太い線は使用しないで下さい（AWG28相当をお勧めします）。
 - 3) 設置場所の温度変化はなるべく小さくして下さい。
特に近くにあるファンのON/OFFなどは、大きな温度変化を生じます。
- ・入力信号配線を他の機器と並列に配線すると、互いに測定値に影響を受けることがあります。やむを得ず並列接続するときは、
 - 1) それぞれ機器の入力信号配線は同一接点にして下さい。
 - 2) 運転中に一方の機器の電源のON/OFFは行わないで下さい。他方の機器に悪影響を及ぼすことがあります。
 - 3) 測温抵抗体入力の場合は、原理的に並列接続はできません。

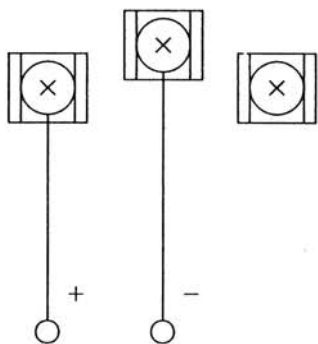


端子図 (1ペン仕様の場合)

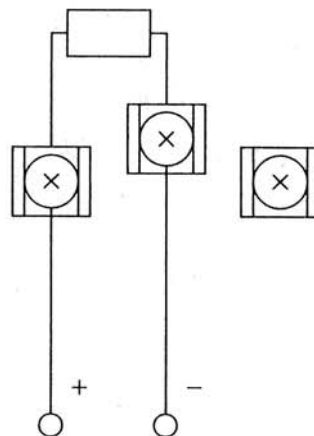


端子図 (2ペン仕様の場合)

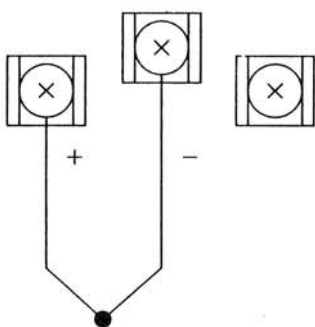
シャント抵抗：250Ω



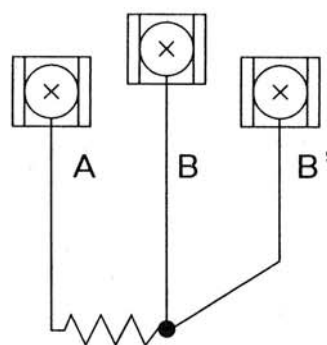
入力配線（電圧入力）



入力配線（電流入力）



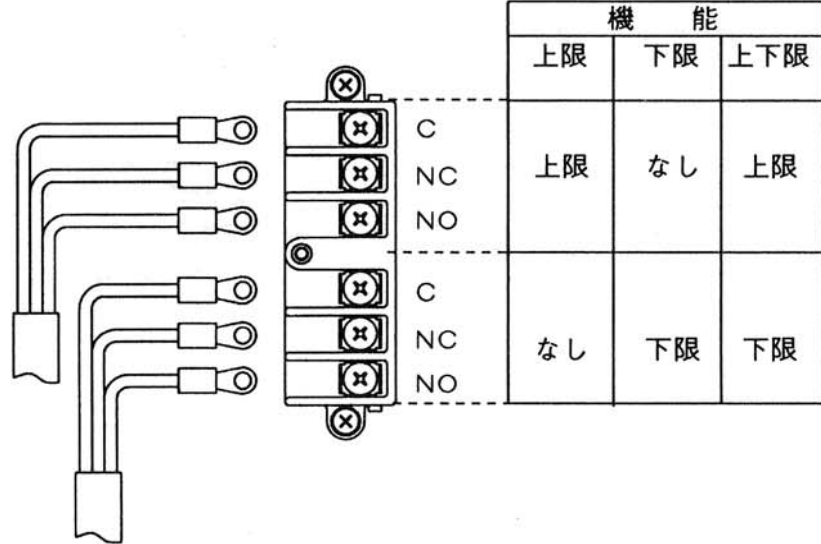
入力配線（熱電対入力）



入力配線（測温抵抗体入力）

⚠ 3-2-4. 警報出力端子の配線方法 (オプション)

1. 本機器の電源スイッチをOFFにして、警報出力端子のカバー (透明) のネジを外し、カバーを開けます。
2. 警報出力線を警報出力端子に接続します。
3. 警報出力端子カバー (透明) を取り付けネジで固定します。



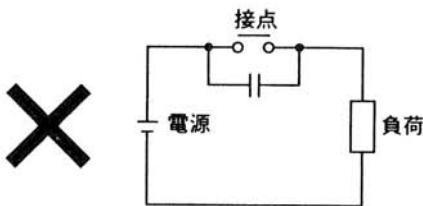
警報出力端子の配線

⚠ 警 告

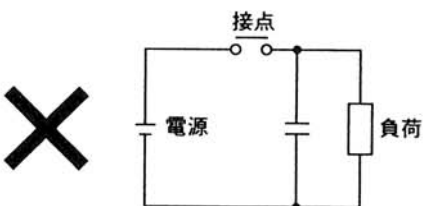
- ・ 感電防止のため、電源供給元がOFFになっていることを確認して下さい。

⚠ 注 意

- ・ 下記のような接点保護回路のご使用は避けて下さい。



- 1) 遮断時のアーク除去には非常に効果がありますが、接点開路時、コンデンサに容量がたくわえられるため、接点の投入時にコンデンサの短絡電流が流れますので接点が溶着しやすくなります。

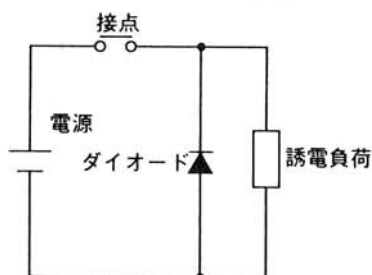


- 2) 遮断時のアーク除去には非常に効果がありますが、接点の投入時にコンデンサへの充電電流が流れますので接点が溶着しやすくなります。

⚠注意

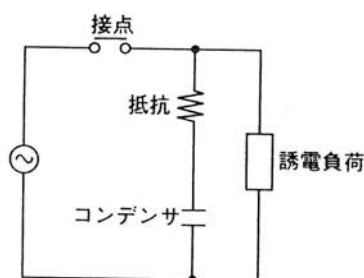
- ・システム機器の各種接点を利用して誘導負荷（リレーやソレノイドなど）を駆動する場合、コイルの両端に逆起電圧が生じ、接点の破壊やノイズ源となって機器の誤動作を招きます。この対策として、接点保護や保護回路を使用することにより低減できます。その代表例を下記に示します。素子の選定は、負荷の性質やリレー特性のバラツキにより必ずしも一致しませんので、決定にあたっては確認テストを行って下さい。また、正しく使用しないと逆効果となりますので、注意して下さい。

1) DCリレーの場合



- ・ダイオードは以下の条件にあったものをご使用下さい
 - a) 逆耐電圧 > 回路電圧 × 10 倍
 - b) 順方向電流 > 負荷電流
- ・ダイオードは誘導負荷端子に直接取り付けして下さい。

2) ACリレーの場合



- ・コンデンサは以下の条件にあったものをご使用下さい
 - a) AC用コンデンサ（極性無し）
 - b) 耐圧は一般に 300 V 以上
 - c) 接点電流 1 A に対し、0.5 ~ 1 (μF)
- ・抵抗は以下の条件にあったものをご使用下さい。
 - a) 接点電圧 1 V に対し、0.5 ~ 1 (Ω)
- ・保護素子は誘導負荷端子に直接取り付けして下さい。

参 考

- ・線を端子に接続する際は、絶縁スリーブ圧着端子（4 mm用ネジ）をご使用下さい。
- ・接点仕様は以下の通りです。
 - 出力形態：リレー接点出力（ノーマルオープンとノーマルクローズ両用）
 - 出力容量：AC 250 V, 3 A
 - DC 30 V, 3 A 抵抗負荷
 - （最小適用負荷：DC 5 V 100 mA、DC 24 V 50 mA）

⚠ 3-2-5. 外部制御端子の配線方法（オプション）

1. 本機器の電源スイッチをOFFにして、入力端子のカバー（透明）のネジを外し、カバーを取り外します。
2. 外部制御線を入力端子に接続します。
3. 入力端子カバー（透明）を取り付けネジで固定します。

⚠ 警告

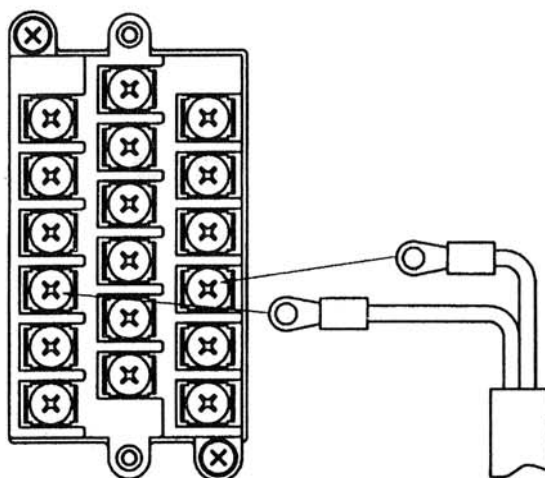
- ・感電防止のため、電源供給元がOFFになっていることを確認して下さい。

注意

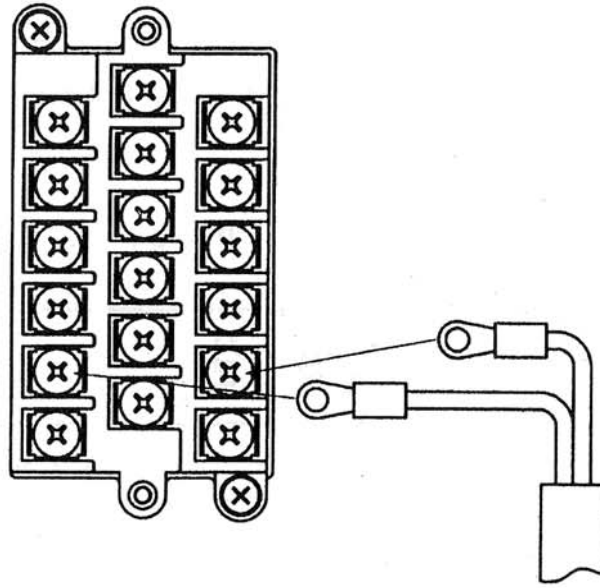
- ・線を端子に接続する際は、静電気に注意して下さい。
故障の原因になることがあります。

参考

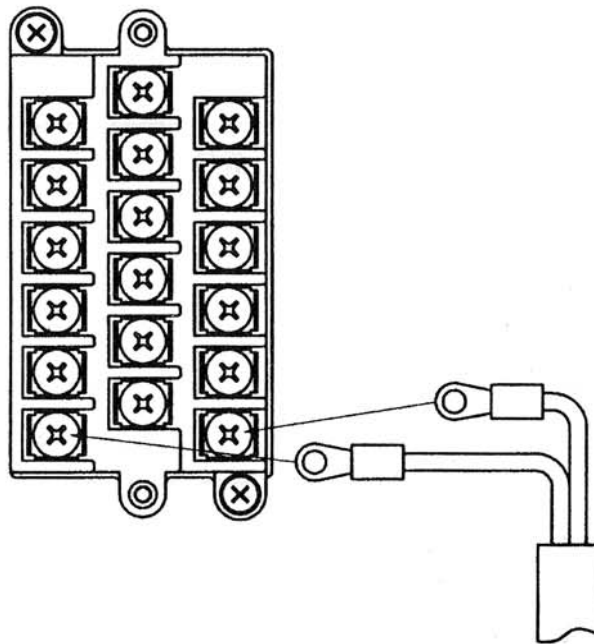
- ・線を端子に接続する際は、絶縁スリーブ圧着端子（4mm用ネジ）をご使用下さい。
- ・以下の仕様を満足する接点（スイッチ）をご使用下さい。
 - 1) サーボロック機能
形 式：無電圧接点
容 量：DC 20V, 500mA以上
 - 2) チャートロック機能
形 式：無電圧接点
容 量：DC 20V, 100mA以上



サーボロック（1ペン）用制御端子の配線



サーボロック（2ペン）用制御端子の配線

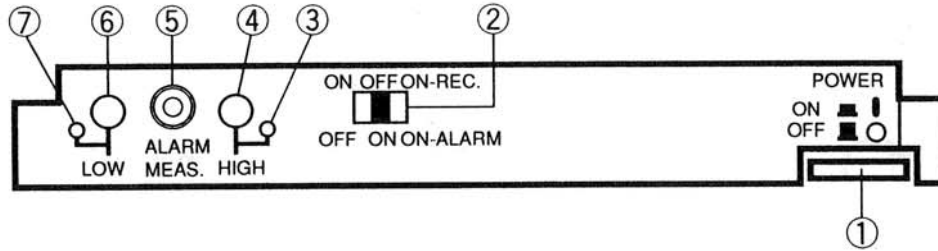


チャートロック用制御端子の配線

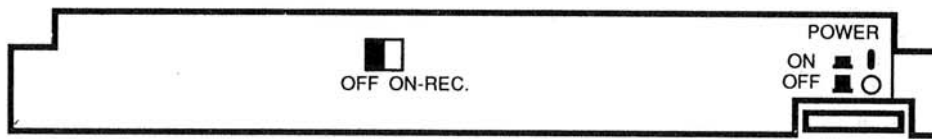
4. 各部の名称と機能

この章では、操作に必要な各部の名称とその機能の概要について説明しています。操作する前には、必ずお読み下さい。

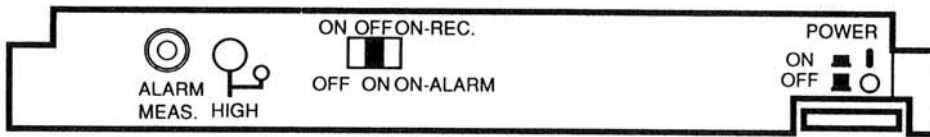
4-1. 前面パネル



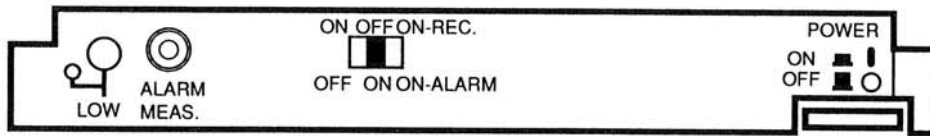
前面パネル（警報上下限設定用）



前面パネル（標準）



前面パネル（警報上限設定用）



前面パネル（警報下限設定用）

①電源スイッチ【POWER】（押しボタン方式）

ボタンを押すたびにON/OFFを繰り返します。

②モードスイッチ


スライド方式により記録の開始/停止を行います。また、警報設定（オプション）付きの機種は、以下の動作状態となります。

■警報（オプション）付きの場合

ON OFF ON-REC.

 OFF ON ON-ALARM

：記録動作を行います。警報表示はしません。

ON OFF ON-REC.

 OFF ON ON-ALARM

：記録は停止しますが、指示のみ動作し、警報表示をします。

ON OFF ON-REC.

 OFF ON ON-ALARM

：記録動作を行い、かつ、警報表示も行います。

③上限警報LED（オプション）

上限警報設定値より指示値が大きいとき、点灯します（「7-2. 警報設定」参照）。

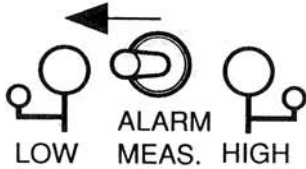
④上限警報設定トリマ【HIGH】（オプション）

上限警報設定状態の時、トリマをまわして設定します（「7-2. 警報設定」参照）。

⑤警報設定スイッチ【ALARM】（オプション）

例 上下限警報設定

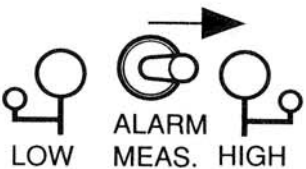
（「7-2. 警報設定」参照）。



：スイッチを左側に倒すと指示が警報下限値に移動し、下限警報の設定が可能になります。



：通常動作となります。（②モードスイッチで設定した動作）



：スイッチを右側に倒すと指示が警報上限値に移動し、上限警報の設定が可能になります。

⑥下限警報トリマ【LOW】（オプション）

下限警報設定状態の時、トリマをまわして設定します（「7-2. 警報設定」参照）。

⑦下限警報LED（オプション）

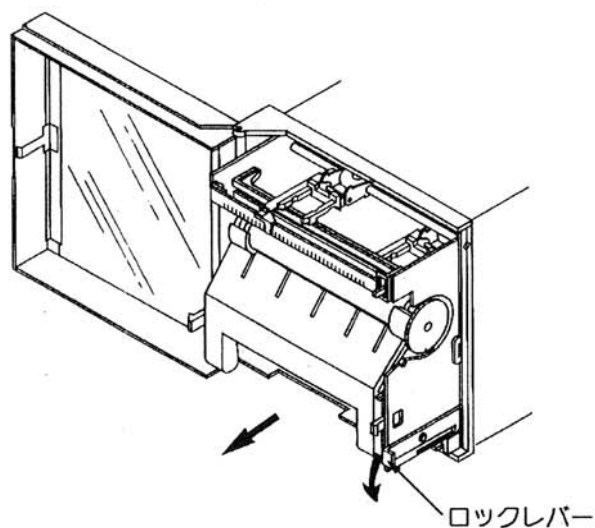
下限警報設定値より指示値が小さいとき、点灯します（「7-2. 警報設定」参照）。

5. 記録紙、ペンの取りつけかた

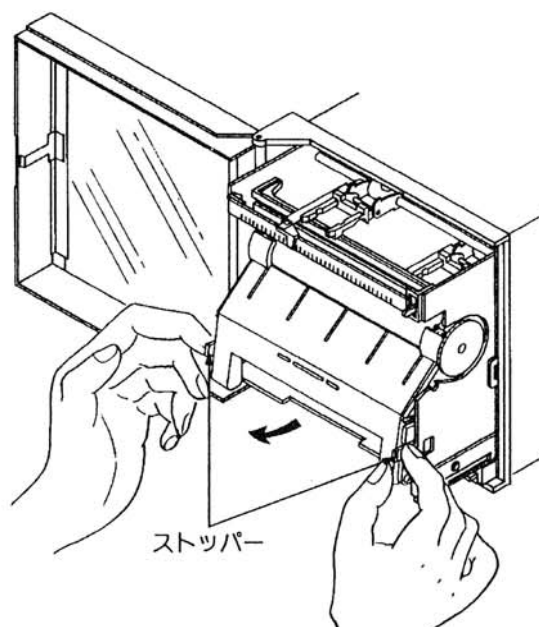
この章では、記録紙やペンの取りつけかたについて説明しています。操作する前に必ずお読み下さい。

5-1. 記録紙のセット (交換)

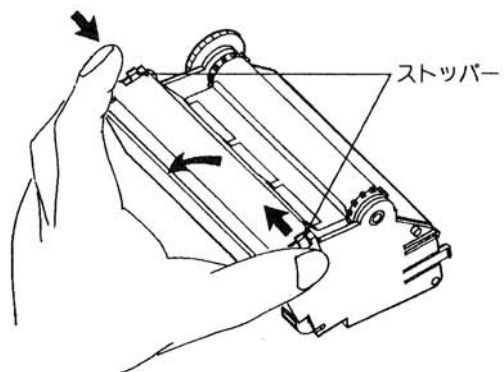
1. 前面扉を開けます。
2. モードスイッチが記録停止状態であることを確認します。電源スイッチは「ON」のままでも可能です。
3. 右のロックレバーを下げて内器を引き出します。



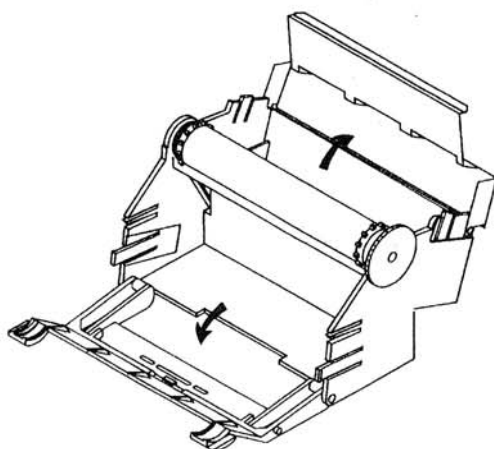
4. チャートカセットの左右端にあるストッパーを内側に軽く押しながら、チャートカセットを本体から取り出します。



5. チャートカセットの後方左右端にあるストッパーを内側に軽く押しながら、記録紙押さえ金具を持ち上げて開けます。



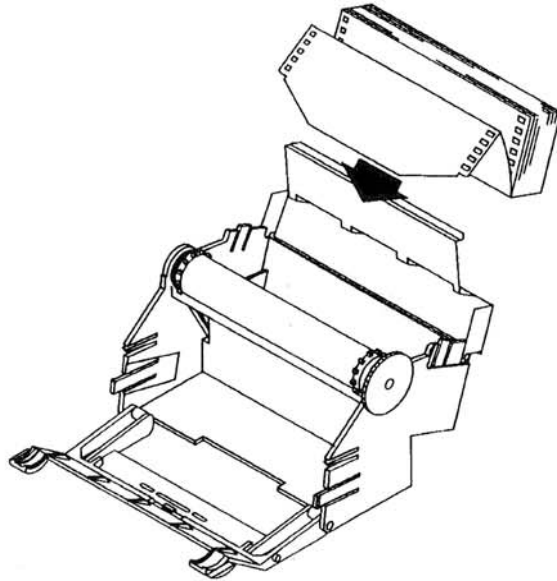
6. チャートカセットの前方部にある記録紙押さえ（透明プラスチック）を手前に倒します。



7. 記録紙をよくさばきます。



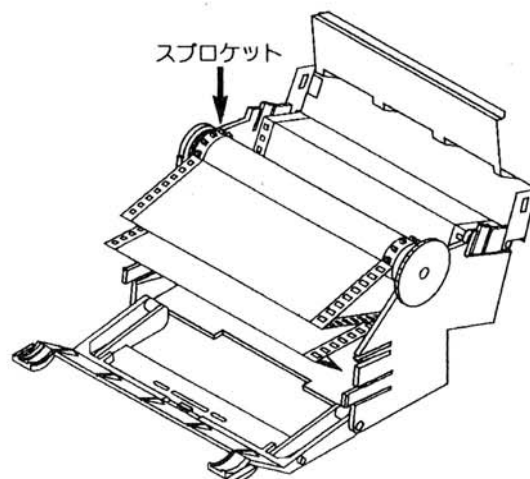
8. 記録紙を矢印の方向に入れます。



注意

・紙の繰り出し部は、手前から出るようにセットして下さい。奥側から繰り出すようにセットしますと、故障の原因となります。

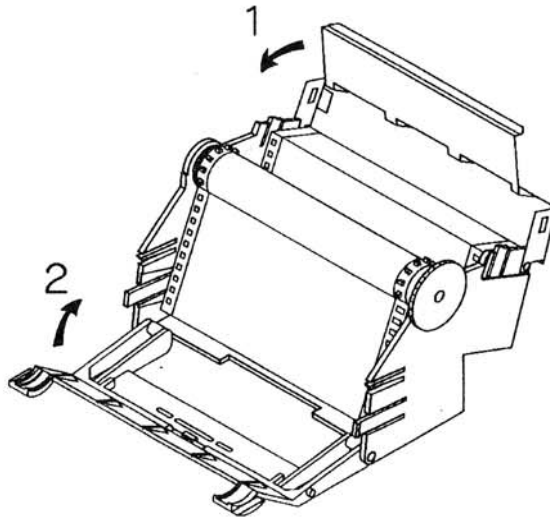
9. 記録紙の先端を15cm位(2~3山程度)引き出して、記録紙の両端にある穴にスプロケットの歯が正しく入るようにします(記録紙の方向を間違えないようにして下さい)。



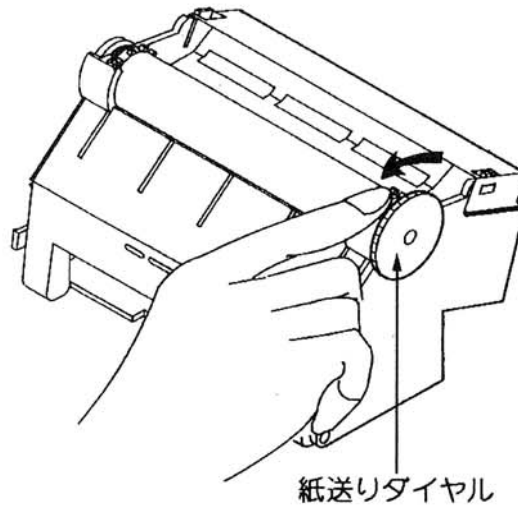
参考

記録紙の方向は、角穴が左側、長穴が右側になるようにセットして下さい。

- 1 0. 記録紙がドラムより浮いていないことを確認して、記録紙押さえ金具を元に戻します。この時、記録紙押さえ金具が確実にロックされているか確認して下さい。
- 1 1. 前方部の記録紙押さえ（透明プラスチック）を閉じます。

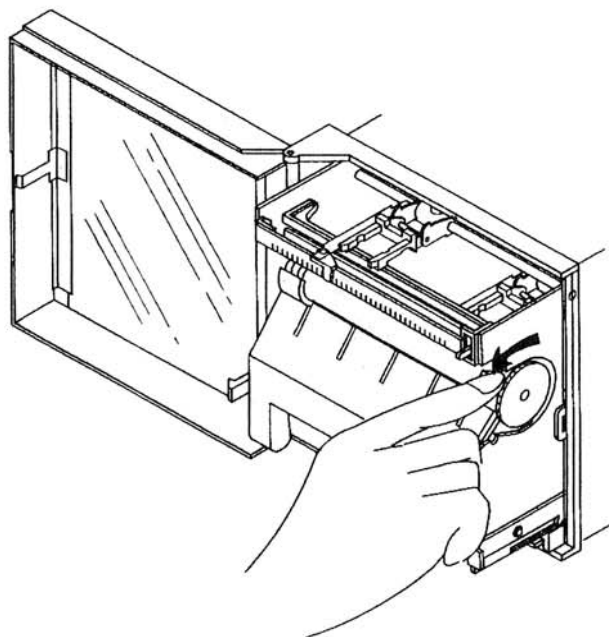


- 1 2. 紙送りダイヤルを2、3回まわし、記録紙が正しく送られることを確認します。この時、記録紙が正しくカセット内に収まることも確認して下さい。



- 1 3. チャートカセットの突起部を本体の溝に掛け、カセット全体を本体に押し込みます。この時チャートカセットが確実にロックし、固定されていることを確認して下さい。

- 1 4. 紙送りダイヤルを2、3回まわし、記録紙が正しく送られることを確認します。

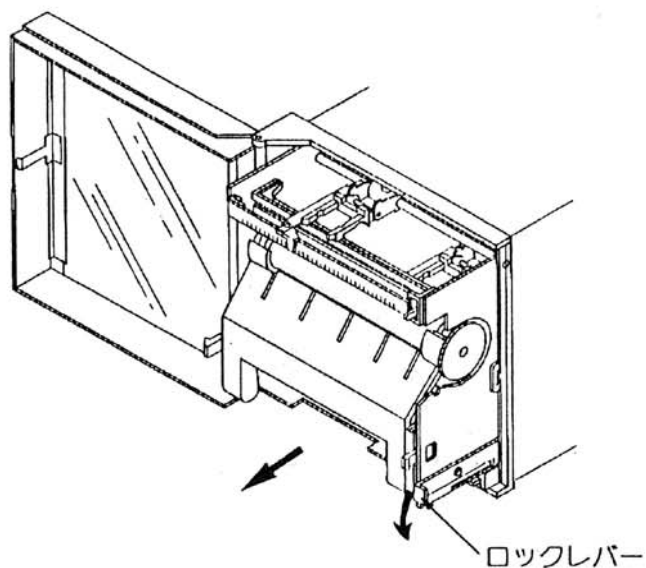


参 考

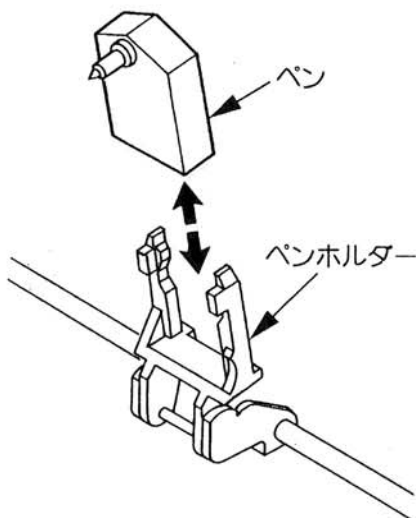
ギヤのバックラッシ（一对の歯車がかみ合う歯と歯の遊び）があるため、すぐに記録紙は送られません。ギヤのバックラッシを少なくするためには、紙送りダイヤルを回した後、逆方向にダイヤルが止まるまで軽く回して下さい。記録紙の時間軸線を合わせるには、この方法をお薦めします。

5-2. ペンのセット（交換）

1. 前面扉を開けます。
2. 電源スイッチを「OFF」にして下さい。
3. 右のロックレバーを下げて内器を引き出します。



4. ペンキャップをはずし、ペンホルダーを上に向け、ペンの溝をホルダーのツメに合わせて軽く押し込みます。2ペン仕様の場合は、1ペンに赤色ペン、2ペンに青色ペンを装着して下さい。（指針の色とペンの色を合わせて下さい。）



5. ペンは、ペンホルダーの奥まで確実に押し込み、ペン先をゆっくりと記録紙に当てて下さい。

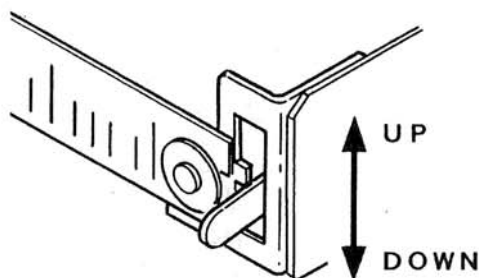
注意

- ・無理にホルダーを左右に移動させると、モータに負荷がかかり記録精度が悪くなります。
- ・ペンの先端は力を加えると変形しますので、つかまないで下さい。
- ・ペンキャップをつけたままペンを装着しないで下さい。ペンが損傷することがあります。
- ・使用しないペンは、ペン先の乾燥を防ぐため、ペンキャップをして下さい。

6. 内機を元に戻します。この時、右のロックレバーが確実にロックしたことを確認して下さい。

参考

- ・ペンアップレバーを上下することによりペンのUP-DOWNができます。



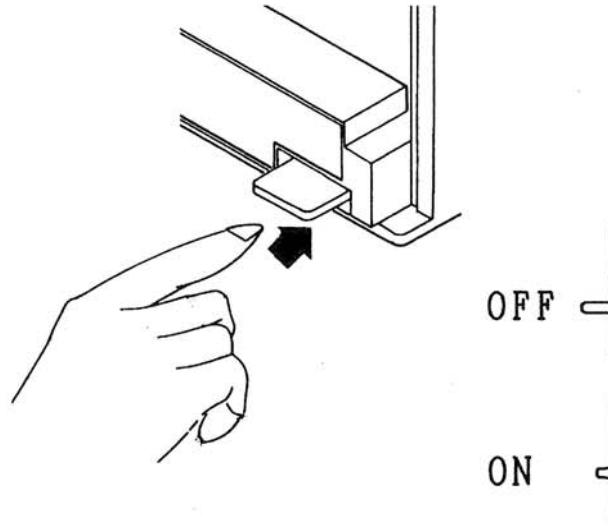
6. 基本操作

この章では、電源のON/OFFや記録の開始/停止などの基本操作について説明しています。

操作前に必ずお読み下さい。

6-1. 電源スイッチのON/OFF

電源スイッチは、前面扉を開けた内側の右下にあります。電源スイッチは、押しボタン式で、一度押すと「ON」になり、もう一度押すと「OFF」になります（下図を参照）。



参 考

- ・本機器のウォームアップ時間は約30分間ですが、配線直後は更に時間を要する場合があります。
- ・入力配線を他の機器と並列接続している場合、運転中の電源スイッチのON/OFFは避けて下さい。測定値に悪影響を与える場合があります。

6-2. 記録開始/停止

モードスイッチをスライドすることで、記録の開始および停止を切り換えます。

■標準仕様の場合



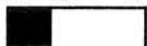
: 記録紙は送られませんが、指示のみ動作します。



: 記録紙は送られ、記録します。

■警報（オプション）付きの場合

ON OFF ON-REC.



：記録紙は送られ、記録しますが、警報表示はしません。

OFF ON ON-ALARM

ON OFF ON-REC.



：記録紙は送られません。指示のみ動作し、警報表示をします。

OFF ON ON-ALARM

ON OFF ON-REC.



：記録紙は送られ、記録します。警報表示も行います。

OFF ON ON-ALARM

6-3. 外部制御

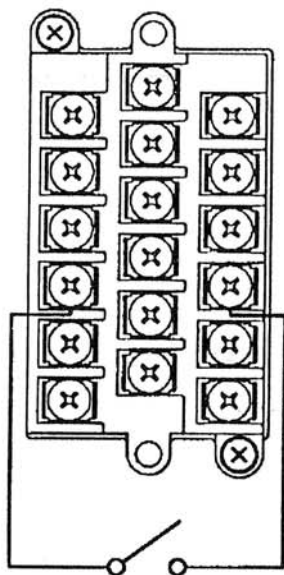
外部制御（オプション）が装備されていない場合は、本機能は無効です。

注 意

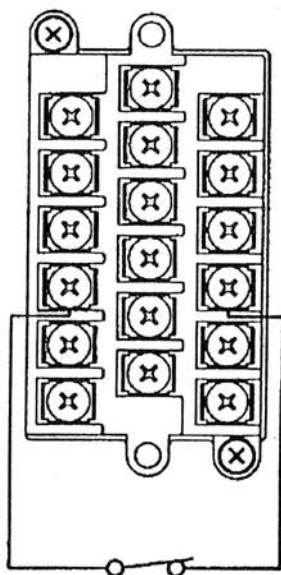
- ・線を端子に接続する際は、静電気に注意して下さい。
本機器の故障の原因になることがあります。

■サーボロック機能

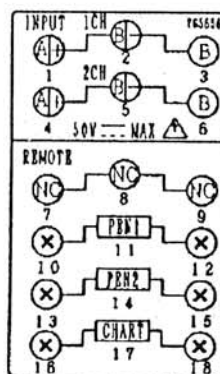
入力端子台にある外部制御端子A-B間を無電圧接点の開閉によってペンモータの制御が行えます。

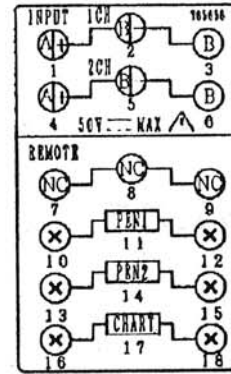
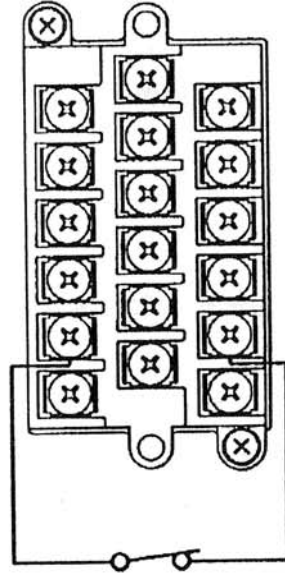
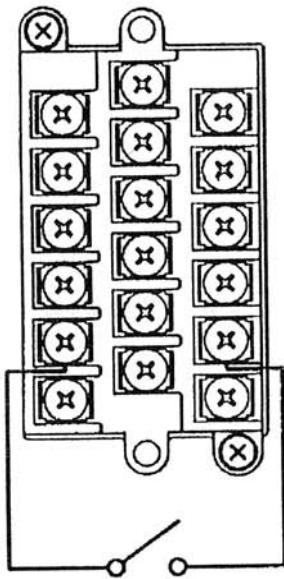


1 ペンモータ指示動作停止
(接点：オープン)



1 ペンモータ指示動作開始
(接点：ショート)

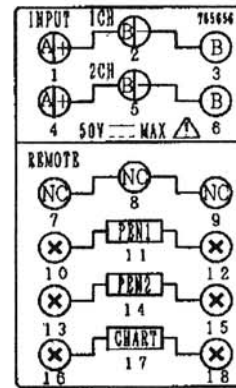
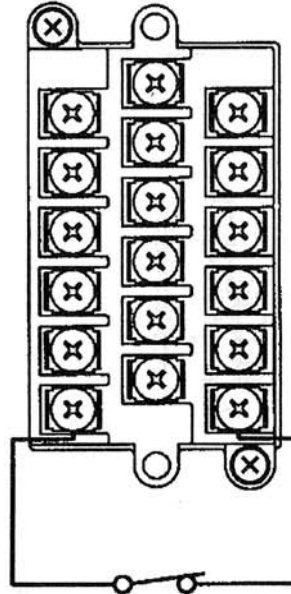
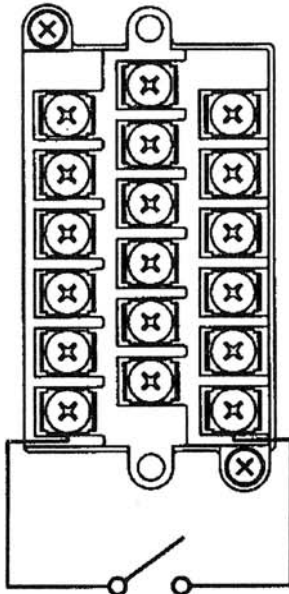




2ペンモータ指示動作停止 (接点：オープン) 2ペンモータ指示動作開始 (接点：ショート)

■チャートロック機能

入力端子台にある外部制御端子A-B間を無電圧接点の開閉によって紙送りの停止、開始が行えます。但し、前面パネルのモードスイッチがREC-OFF時のみ有効です。



紙送りモータ停止 (接点：オープン)

紙送りモータ開始 (接点：ショート)

7. 設定

この章では、以下の設定方法について説明しています。

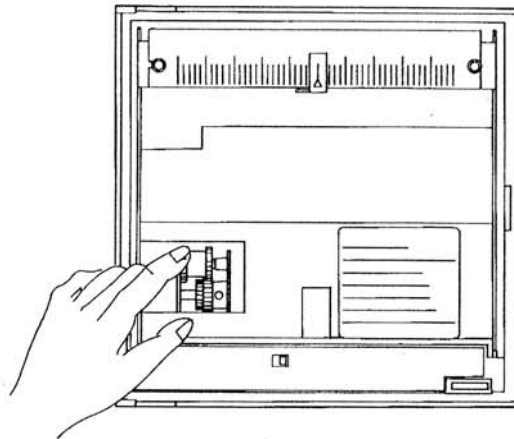
7-1. 周波数の設定

7-2. 警報設定 (オプション)

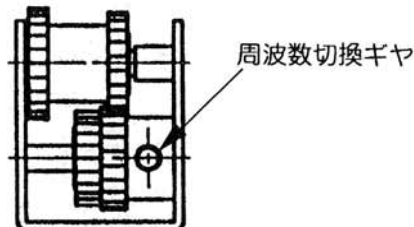
7-1. 周波数設定

定格銘板に記載されている電源周波数と異なる周波数で使用される場合のみ周波数設定を行って下さい。

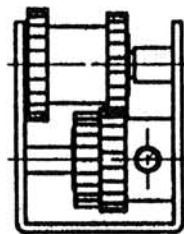
1. 前面パネルを開け、チャートカセットを引き出します。
2. 電源スイッチを「OFF」にして下さい。
3. 切換ギヤ部を指で上に持ち上げギヤのネジ部が見えるようにします。



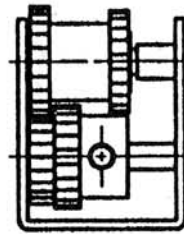
4. 内器の左奥部にある周波数切り換えギヤのネジを六角レンチでゆるめます。



5. 50 Hz または、60 Hz の位置にしてネジを閉めて下さい。締め付けトルクは 0.2 ~ 0.3 N・m です。



50 Hz 用



60 Hz 用

注意

- ・適正締め付けトルク以上に締め付けると、ギヤの破損を生じる恐れがあります。
- ・電源周波数と同じ周波数に設定されていない場合、記録紙送り量に送り誤差が生じます。

参考

ご使用中に周波数設定を変更する場合は、切換ギヤのネジ部が手前に向くまで記録状態にして下さい。

7-2. 警報設定 (オプション)

1ペンのみ、2点の警報設定が出来ます。設定値を設定すると、測定値がこの値に達した時点でLEDが点灯します。

なお、警報表示 (オプション) が装備されていない場合は、本機能は無効です。

下限警報 (LOW) : 測定値が警報設定点以下になった場合に警報を発します。

上限警報 (HIGH) : 測定値が警報設定点以上になった場合に警報を発します。

7-2-1. 下限警報設定および動作

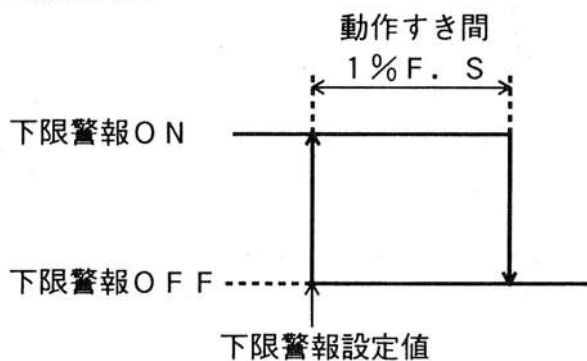
■設定方法

1. モードスイッチを中央もしくは、右側にスライドします。
2. 警報設定スイッチ【ALARM】を左に倒し、下限警報設定トリマ【LOW】をマイナスイドライバーで下限警報設定値を変更します。
3. 警報設定スイッチ【ALARM】を中央に戻して終了です。

参考

- ・警報設定を終了した後、再度、警報設定スイッチ【ALARM】を倒して設定値を確認することをお勧めします。
- ・警報設定値は、電源を「OFF」にしてもデータは消えません。

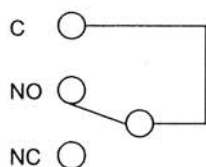
■動作内容



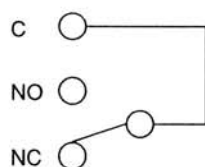
動作状態	下限LED	警報出力端子状態
下限ON	点灯	NO-C間: ON NC-C間: OFF
下限OFF	消灯	NO-C間: OFF NC-C間: ON
電源OFF時	消灯	NO-C間: OFF NC-C間: ON

■出力動作

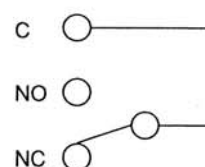
- ・設定値よりも指示値が小さいとき、出力接点はNO-C間がON、NC-C間がOFFとなり、前面パネルのLOW側のLEDが点灯します。
- ・設定値よりも指示値が大きいとき、出力接点はNO-C間がOFF、NC-C間がONとなり、前面パネルのLOW側のLEDが消灯します。
- ・電源を切りますと、出力接点は、NO-C間がOFF、NC-C間がONとなり、前面パネルのLOW側のLEDが消灯します。



警報発生時



警報発生していない場合



電源OFF時

下限警報の出力動作

注意

本機器の電源をON又は、OFFにした時、一瞬警報出力が警報発生時状態に切り換わる場合があります。本機器の警報出力で別の機器を直接コントロールされる場合は、タイマーディレイ等を使用されることをお勧めします。

7-2-2. 上限警報設定および動作

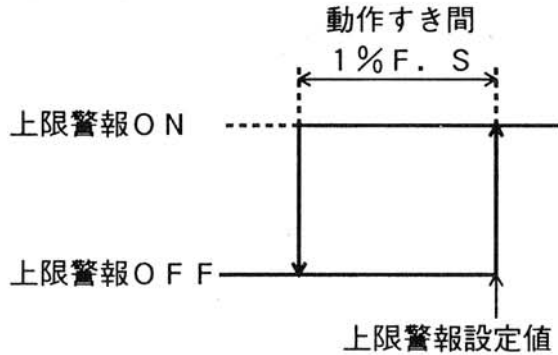
■設定方法

1. モードスイッチを中央もしくは、右側にスライドします。
2. 警報設定スイッチ【ALARM】を右に倒し、上限警報設定トリマ【HIGH】をプラスドライバーで上限警報設定値を変更します。
3. 警報設定スイッチ【ALARM】を中央に戻して終了です。

参 考

- ・ 警報設定を終了した後、再度、警報設定スイッチ【ALARM】を倒して設定値を確認することをお勧めします。
- ・ 警報設定値は、電源を「OFF」にしてもデータは消えません。

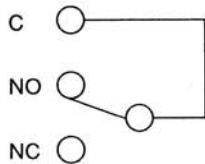
■動作内容



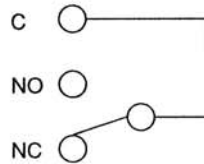
動作状態	上限LED	警報出力端子状態
上限ON	点灯	NO-C間：ON NC-C間：OFF
上限OFF	消灯	NO-C間：OFF NC-C間：ON
電源OFF時	消灯	NO-C間：OFF NC-C間：ON

■出力動作

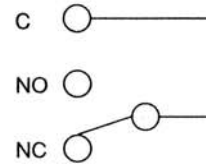
- ・ 設定値よりも指示値が小さいとき、出力接点はNO-C間がOFF、NC-C間がONとなり、前面パネルのHIGH側のLEDが消灯します。
- ・ 設定値よりも指示値が大きいとき、出力接点はNO-C間がON、NC-C間がOFFとなり、前面パネルのHIGH側のLEDが点灯します。
- ・ 電源を切りますと、出力接点は、NO-C間がOFF、NC-C間がONとなり、前面パネルのHIGH側のLEDが消灯します。



警報発生時



警報発生していない場合



電源OFF時

上限警報の出力動作

注 意

本機器の電源をON又は、OFFにした時、一瞬警報出力が警報発生時状態に切り換わる場合があります。本機器の警報出力で別の機器を直接コントロールされる場合は、タイマーディレイ等を使用されることをお勧めします。

8. 保守点検

この章では、本機器を常に良好な状態でご使用していただくための保守方法について説明します。

8-1. 定期点検

定期的に動作状態を点検し、常に本機器を良好な状態でご使用下さい。次の点検を行い、交換の必要な部品は、交換を行って下さい。

■指示、記録が正常に行われていますか？

異状がある場合は、「9. トラブルシューティング」を参照して下さい。

■記録紙が紙づまりなどを起こさずに正常に送られていますか？

異状がある場合は、「5-1. 記録紙のセット」を参照して下さい。

■記録線が不明瞭になっていませんか？

ペンの交換は、「5-2. ペンのセット」を参照して下さい。

■記録紙は、十分に残っていますか？

記録紙が少なくなりますと記録紙右側に赤い終端マークが出ますので新しい記録紙と交換して下さい。交換方法は、「5-1. 記録紙のセット」を参照して下さい。

■シャフトが汚れていませんか？

汚れていれば「8-2. 清掃」を参照して下さい。

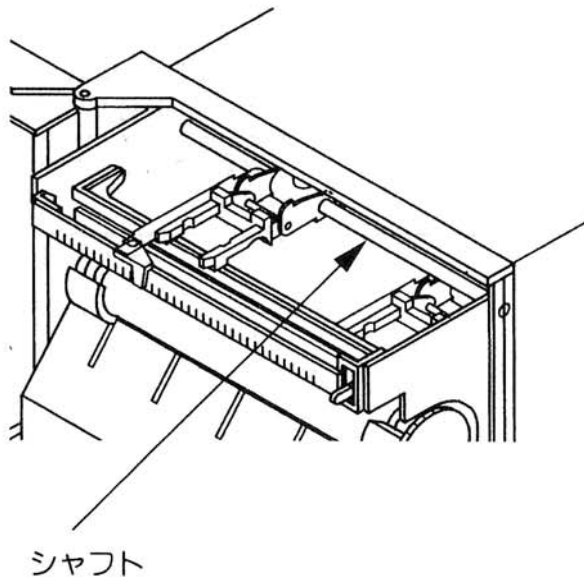
参 考

- ・定期点検は設置環境や動作条件で異なります。粉塵の多い環境や指示変化が大きい動作では6ヶ月間隔程度で、粉塵が少ない環境や指示変化が小さい動作では1年間隔程度で行って下さい。
- ・清掃は1ヶ月毎に清掃して下さい。

8-2. 清掃

良好な動作を確保するためにシャフトを1ヶ月毎に清掃することをお勧めします。
清掃方法は、以下の通りです。

1. シャフトをケバの出ない柔らかい布か紙で拭きます。汚れが落ちにくい場合は、エチルアルコールを柔らかい布か紙にしみ込ませ、拭き取ります。



注意

- ・シャフトに潤滑油を塗らないで下さい。故障の原因になります。
- ・シンナーやベンジンなどの揮発性の液体やその液体がしみこんだ布は使用しないで下さい。変色や変形の原因になります。

9. トラブルシューティング

この章では、本機器に異状が発生した場合の原因と対処方法を説明しています。

■まったく動作しない。

点検項目	対象方法
電源スイッチは投入されていますか？ スイッチ動作は正常ですか？	正しく投入して下さい。
電源接続は正しいですか？	正しく接続して下さい。
電源供給は正しく行われていますか？	仕様の電源／周波数に合った電源を供給して下さい。
ヒューズが断線していませんか？	ヒューズ交換は、弊社のサービスマンが行いますので、裏表紙に記載されている本社又は各支店までご連絡下さい。

■指示が動かない。

点検項目	対象方法
電源スイッチは投入されていますか？ スイッチ動作は正常ですか？	正しく投入して下さい。
電源接続は正しいですか？	正しく接続して下さい。
電源供給は正しく行われていますか？	仕様の電源／周波数に合った電源を供給して下さい。
ヒューズが断線していませんか？	ヒューズ交換は、弊社のサービスマンが行いますので、裏表紙に記載されている本社又は各支店までご連絡下さい。
入力配線は正しいですか？	<ul style="list-style-type: none"> ・正しく配線して下さい。 ・端子ネジを正しく締めて下さい。 ・測温抵抗体はアースから絶縁して下さい。 ・断線した熱電対は交換して下さい。

■記録紙が送らない。

点検項目	対象方法
電源スイッチは投入されていますか？ スイッチ動作は正常ですか？	正しく投入して下さい。
電源接続は正しいですか？	正しく接続して下さい。
電源供給は正しく行われていますか？	仕様の電源／周波数に合った電源を供給して下さい。
ヒューズが断線していませんか？	ヒューズ交換は、弊社のサービスマンが行いますので、裏表紙に記載されている本社又は各支店までご連絡下さい。
モードスイッチが「REC=ON」になっていますか？	モードスイッチを「REC=ON」にしてください。
チャートカセットが正しくセットしていますか？	正しくセットして下さい。
記録紙が正しくセットしていますか？ スプロケットから外れていませんか？	正しくセットして下さい。

■記録しない。

点検項目	対象方法
電源スイッチは投入されていますか？ スイッチ動作は正常ですか？	正しく投入して下さい。
電源接続は正しいですか？	正しく接続して下さい。
電源供給は正しく行われていますか？	仕様の電源／周波数に合った電源を供給して下さい。
ヒューズが断線していませんか？	ヒューズ交換は、弊社のサービスマンが行いますので、裏表紙に記載されている本社又は各支店までご連絡下さい。
モードスイッチが「REC=ON」になっていますか？	モードスイッチを「REC=ON」にしてください。
チャートカセットが正しくセットしていますか？	正しくセットして下さい。
ペンアップレバーが上がっていませんか？	ペンアップレバーを下げて下さい。
ペンのインクは充分にありますか？	ペン交換を行って下さい。

■誤差が大きい。指示がふらつく。

点検項目	対象方法
入力は仕様に満足していますか？	仕様に合った入力にして下さい。
ノイズ対策をしていますか？	<ul style="list-style-type: none"> ・入力配線をノイズから離して下さい。 ・レコーダをアース接地して下さい。 ・測定対象をアース接地して下さい。 ・熱電対と測定対象を絶縁して下さい。 ・入力信号線にシールドを使って下さい。 ・入力フィルタを使って下さい。
外気温変化の対策をしていますか？	入力端子カバーを正しく取り付けて下さい。
入力配線は正しいですか？	<ul style="list-style-type: none"> ・正しく配線して下さい。 ・端子ネジを正しく締めて下さい。 ・測温抵抗体はアースから絶縁して下さい。 ・断線した熱電対は交換して下さい。

■指示がゼロ側もしくは、スパン側に振り切れる。

点検項目	対象方法
入力は仕様に満足していますか？	仕様に合った入力にして下さい。
ノイズ対策をしていますか？	<ul style="list-style-type: none"> ・入力配線をノイズから離して下さい。 ・レコーダをアース接地して下さい。 ・測定対象をアース接地して下さい。 ・熱電対と測定対象を絶縁して下さい。 ・入力信号線にシールドを使って下さい。 ・入力フィルタを使って下さい。
外気温変化の対策をしていますか？	入力端子カバーを正しく取り付けて下さい。
入力配線は正しいですか？	<ul style="list-style-type: none"> ・正しく配線して下さい。 ・端子ネジを正しく締めて下さい。 ・測温抵抗体はアースから絶縁して下さい。 ・断線した熱電対は交換して下さい。

■警報が動作しない。

点検項目	対象方法
モードスイッチが「ALARM=ON」ですか？	モードスイッチを「ALARM=ON」にして下さい。
警報設定値が正しく行われていますか？	警報設定値を正しく設定して下さい。
警報出力配線は正しいですか？	<ul style="list-style-type: none"> ・正しく配線して下さい。 ・端子ネジを正しく締めて下さい。

■外部制御が動作しない。

点検項目	対象方法
外部制御入力配線は正しいですか？	<ul style="list-style-type: none">・正しく配線して下さい。・端子ネジを正しく締めて下さい。
接点（スイッチ）は仕様に満足していますか？	仕様に合った接点（スイッチ）を使用して下さい。

上記の対処をしても正常動作しない場合は、本機器の故障と思われます。直ちに電源を切り、裏表紙に記載されている本社又は各支店までご連絡下さい。

10. 仕様

機種	1ペン仕様 2ペン仕様
記録方式 指針	: 自動平衡式連続実線記録 : 第1ペン・・・・赤色カーソル (下ペン) : 第2ペン・・・・青色カーソル (上ペン) 但し、1ペン仕様は第1ペンのみとする。
外観 色	: ケース部・・・・・・黒色 (半ツヤ) 前面扉部・・・・・・黒色 (半ツヤ)
外形寸法	: W×H×D・・・・・・144×144×150mm
取付方法 取付寸法	: パネル埋め込み方式 (垂直パネル) パネルカット寸法: 138×138mm [+1, 0]
姿勢	: 取付角度は後方下がり0~30°まで傾斜して取り付け可能。 左右は水平。但し、操作は含まず、動作のみとする。
記録紙 記録紙幅	: 113.5mm
有効目盛り幅	: 100mm
記録紙長	: 12m 折り畳み
折り畳みピッチ	: 40mm
記録ペン	: ディスポーザブルフェルトペン
記録色	: 1CH・・・・赤 2CH・・・・青 但し、1ペン仕様は1CHのみとする。
ペン寿命	: 連続直線筆記で800m以上 (常温常湿にて)
消費電力	: 1ペン仕様・・・・約 7VA 2ペン仕様・・・・約 11VA
質量	: 1ペン仕様・・・・約1.8Kg 2ペン仕様・・・・約2.0Kg
突入電流	: 8A以下 (10ms以下)
入力 入力種類	1) 直流電圧 測定範囲-5V~10V、10mV幅以上、10V幅以下 2) 直流電流 4~20mA、0~20mAいずれか (負荷抵抗250Ω) 3) 熱電対 R 0~1600℃範囲、800℃幅以上 S 0~1600℃範囲、1000℃幅以上 B 0~1800℃範囲、1200℃幅以上 K 0~1200℃範囲、300℃幅以上 E 0~1000℃範囲、150℃幅以上 J 0~1200℃範囲、200℃幅以上 T -100~400℃範囲、200℃幅以上 WRe ₅₋₂₆ 0~2300℃範囲、2000℃幅以上 4) 測温抵抗体 Pt100 -100~500℃範囲、50℃幅以上 上記入力のいずれか一つをご指定ください。

耐電圧 AC電源タイプ：AC1000V 1分間 入力端子—接地間
 AC2300V 1分間 電源端子—接地間
 DC電源タイプ：AC 500V 1分間 入力端子—接地間
 AC 500V 1分間 電源端子—接地間

漏れ電流 0.8mA以下

動作条件 周囲温度 : 0～50℃以内
 周囲湿度 : 35～85%RH以内 (5～40℃にて)
 但し、結露なきこと。
 取付姿勢 : 後方下がり0～30°まで可、左右水平。
 但し、操作は含まず、動作のみとする。
 振動 : 周波数10～60Hz、加速度0.02G以内
 衝撃 : 許容せず
 ウォームアップ時間 : 電源投入時点より30分以上

無線周波数電磁界の試験	: 規格ENV50140	許容指示変動±2.5%F.S以内	} CEマーク 適合品
無線周波数コンプレートの試験	: 規格ENV50141	許容指示変動±2.5%F.S以内	
電源磁界の試験	: 規格EN61000-4-8	許容指示変動±3%F.S以内	
ファースト・トランジェント/ハーストの試験	: 規格EN61000-4-4	許容指示変動±3%F.S以内	

輸送及び

保管条件 温度/湿度 : -30～+70℃、30～95%RH
 但し、結露なきこと。
 振動 : 10～60Hz、0.5G以下
 衝撃 : 40G以下 (梱包状態にて)

付属品

パネル取付金具・・・1式
 記録紙・・・・・・1箱 (2冊入り)
 記録カード・・・・・・1
 取扱説明書・・・・・・1冊 (本書)
 ペン (赤)・・・・・・1
 ペン (青)・・・・・・1 (2ペン仕様のみ付属)
 六角レンチ・・・・・・1
 マイナスドライバー・1 (警報機能付きのみ付属)

オプション 1) 外部制御 (リモート)

- ①サーボロック (ペンモータ動作の開始/停止)
 - ・形式・・・・・・無電圧接点 (接点容量 DC50V, 500mA以上)
 - ・有効条件・・・・・・リモート端子が「閉」で開始、「開」で停止
- ②チャートロック機能 (記録開始/停止)
 - ・形式・・・・・・無電圧接点 (接点容量 DC20V, 100mA以上)
 - ・有効条件・・・・・・前面のモードスイッチが「REC-OFF」でリモート端子が「閉」で開始、「開」で停止とする。

2) 警報

- ・設定内容・・・・・・上下限/上限/下限 (1ペンのみ設定、出力)
- ・設定範囲・・・・・・測定レンジ範囲に対して0～100%
- ・設定精度・・・・・・±0.85%F.S
- ・動作すき間・・・・・・1%F.S以下
- ・出力形式・・・・・・リレー接点出力 (ノーマルオープンとノーマルクローズ用)
 AC250V, 3A DC30V, 3A 抵抗負荷

最小適用負荷：DC 5V 100mA、DC 24V 50mA

3) バーンアウト
ゼロ側又はスパン側振り切れ。

4) ポータブル仕様

・ケースに取手及びゴム足付き

10-1. スケール仕様表

入 力		目 盛
直流電圧・電流		0~10, 0~100, 0~100%, 0~14pH, 40, 50, 60, 70, 75等分
熱電対	R	0~1400, 0~1600, 800~1600℃
	S	0~1400, 0~1600℃
	B	500~1800, 600~1800℃
	K	0~300, 0~400, 0~500, 0~600, 0~800, 0~1000, 0~1200, 500~1200℃
	E	0~150, 0~300℃
	J	0~200, 0~300, 0~400, 0~600, 0~800℃
	T	0~200, 0~300, -50~150℃
W-Re ₅₋₂₆	0~2000, 0~2300℃	
測温抵抗体		0~50, 0~100, 0~150, 0~200, 0~300, 0~400, 0~500, -100~100, -100~50, -50~150, -50~100, -50~50, -20~80℃

表10-1 スケール仕様表

チャート速度の変更

⚠ 警告



チャート速度の変更作業は、必ず電源の供給元を切った状態で行ってください。
感電の恐れがあります。

チャート速度はギアの組み合わせの交換によって工場出荷時の2倍、4倍に変更できます。

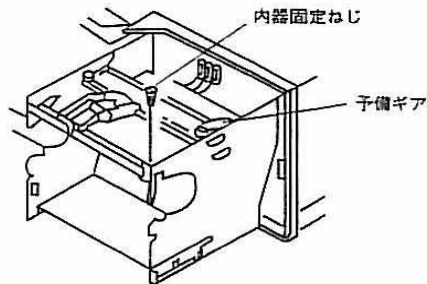
ギアは大、中、小の3種類があります。

● 用意するもの

プラスドライバ

● 変更手順

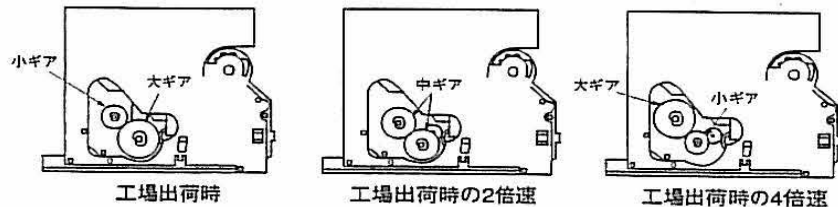
- ① 電源スイッチがOFFになっていることを確認してください。
- ② ドアをあけます。
- ③ ロックレバーを下げて内器を取り出します。
- ④ チャートカセットを本体から取外します。
- ⑤ 図のように内器固定ねじを緩め、内器を取り出します。



⚠ 取扱上の注意

ねじは抜き取る必要はありません。途中まで緩めると取り出せます。

- ⑥ 必要に応じて予備ギアをはずします。
- ⑦ シャーシ左側面のギアの組み合わせを図のように組み替えます。
ギアは手前に引くと抜けます。ギアを差し込むときは軸の面取り部とギアの軸を合わせて、押し込みます。



- ⑧ ギアが確実に噛み合っていることを確認してください。
- ⑨ 使用しないギアは予備ギアの固定場所に戻してください。
- ⑩ 内器を元に戻し、内器固定ねじを締めてください。